

「永遠のいのち、
忘れられない人」暗いと不平を言うよりも
すすんであかりをつけましょう心の
ともしび

まなざし

なかの
中野 けんいちろう
健一郎 神父

「まなざし」と聞いて真っ先に思い浮かぶのは、祖母の笑顔。にっこりと私を見つめる優しいまなざしが、「ケーン」と呼びかける声とともに蘇^{よみがえ}ってくる。

幼い頃の私は反抗期が激しく、母に歯向かい叱られては、泣きながら隣りの祖母の家に駆け込んでいたが、祖母は初孫同然の私を大変可愛がってくれた。縁側の雑巾がけを私が手伝うと、なぜかいつも梨をむいてくれた。食べる私を笑顔で見つめ、「ケンは可愛いかー」と言いながら頬に口づけを連発してくる。祖母の目を盗んで頬をこっそり拭き、食べ終わると祖母は私を香台(家庭祭壇)の前まで連れて行った。祭壇に飾られた祈る少年サムエルの絵を見せ、「心がきれいで素直か子どものお祈りば、神さまは一番聞いてくれるとよ。ケンもこがんぶうに、お祈りする人にならんね」と言う。

日曜日には、浦上キリシタンの末裔である祖母は手を引き、私をミサに連れて行った。坂の途中のマリア像の前で、祖母に「ここでは必ずお辞儀よ」と言われ、今でもそこを素通りできない。

また祖母の家にお泊りし一緒に夕の

祈りをする、祖母は「聖マリアの連祷」を何も見ずにスラスラ唱えている。私は祖母を尊敬のまなざしで見つめた。

やがて私は大人になり、帰省して祖母の死が間近の病床へ駆けつけると、普段は無反応だったはずの祖母は首を動かし、涙目でしっかり私にまなざしを向けてくれた。祖母が召された後、形見にロザリオをもらった。香台にはマリアさまが十人以上おられた。

祖母はマリアさまをしっかりと見つめていた。マリアさまは慈愛に満ちたまなざしで、幼子イエスさまを見つめておられる。私もそのようなまなざしで、神と人をつつかり見つめ続ける者でありたい。

ホームページ (<https://www.tomoshibi.or.jp>)

【心のともしび運動 ご支援のお願い】

心のともしび運動は、世界の平和と一人ひとりの真の幸せを願って、ラジオ、機関紙、インターネットを通じて神の言葉を伝えています。この活動は、すべて援助会員の皆様からの献金によって運営されています。人として人のために生きる力の泉となる神の言葉を一人でも多くの方に伝えられるよう、ぜひ、援助会員になってご支援くださいますようお願い申し上げます。住所、氏名をお知らせください。申し込み用紙をお送りさせていただきます。

仮事務所 連絡先 (電話：075-211-9341 FAX：075-211-9343)

〒602-0934 京都市上京区一条殿町502-1 カトリック西陣教会青年会館内 心のともしび運動YBU本部